

TOPICS 東近江の
森と人をつなぐ
あかね基金

人口減少・少子高齢化への対応、温室効果ガス削減や生物多様性の保全など、持続可能な社会の構築は、今大きな命題です。「あかね基金」は、地域が持っている自然の恵みや人々の力など地域資源を最大限にいかしながら、環境問題をはじめさまざまな課題の解決に向け取り組み、日々の暮らしに豊かさを感じられるような地域社会の実現につながる、社会的に意義のある事業を助成するものです。

助成金の原資は、個人や企業から寄せられた寄附とふるさと納税から拠出した資金です。豊かな森を次世代につなぐため、民間活動を応援しようとする活動を支援するため、多くの皆様のご協力をお願いします。
公益財団法人東近江三方よし基金
☎080-2541-9990

菜の花エコプロジェクト
全国に広がる「菜の花エコプロジェクト」は、平成10年に本市の愛東地区から始まった地域資源循環モデルです。
転作田に菜の花を植えて、なたね油を作ります。なたね油は家庭料理や学校給食に使い、搾油時に出た油かすは肥料として農地に還元します。廃食油は回収して、せっけんやBDF（バイオディーゼル燃料）としてリサイクルします。BDFを使用したとき、排出されるCO₂は、菜の花が成長するときに吸収したもののなので、大気中のCO₂量は増えていません。



あいとうエコプラザ菜の花館
道の駅あいとうマーガレットステーションの隣にあり、周囲では季節の花が楽しめます。

このように地球温暖化防止に貢献しつつ、地域内で資源が循環する取組、それが「菜の花エコプロジェクト」です。
本プロジェクトの情報発信拠点である「あいとうエコプラザ菜の花館」では、さまざまな環境体験ができます。

特集

カーボン ニュートラルへの取組

近年、全国各地で異常気象や想定外の災害が毎年のように発生しています。こうした異常気象は、地球温暖化による気候変動が原因と考えられています。温暖化防止に向けて、私たちの暮らしの中で何ができるでしょうか。

地球温暖化の原因

地球温暖化とは、二酸化炭素（CO₂）をはじめとする温室効果ガスが大気中に増えることで地球が冷えにくくなり、地球の平均気温が上昇することです。

18世紀の産業革命以降、化石燃料の消費が増加する一方、森林資源が減少したことによって、大気中のCO₂濃度は、産業革命前（1750年）に比べ40%も増加しました。（環境省「地球温暖化の実態」より引用）

温室効果ガスは、自動車での移動やごみの焼却、電気の使用など、私たちの日常生活からも排出されています。



▲河川が越水し、道路の冠水や床上浸水のほか、農作物にも多くの被害が発生（平成25年の台風18号）。また、令和2年8月20日には、県内史上最高気温となる39.2℃を記録

カーボンニュートラルー

脱炭素社会を目指して

地球温暖化防止のために、温室効果ガスの排出抑制が世界共通の課題となっています。令和3年10月、日本も温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」を目指すことを宣言しました。「全体としてゼロ」とは、温室効果ガスの「排出量」を森林などによる「吸収量」と差し引きして、実質的にゼロにすることを意味します。

カーボンニュートラルを実現するためには、日常生活の中で温室効果ガスの排出量を減らすことと、植林や森林管理によりCO₂の吸収量を増やすことの両方を進めていく必要があります。

東近江市での取組

本市はカーボンニュートラルにつながる取組として、地域資源循環モデル「菜の花エコプロジェクト」を全国に先駆けて実施してきました。

令和元年度には、「100年の森づくりビジョン」を策定し、地域の56%を占める森林の適正管理と有効活用を図り、長期的な視点で

私たちができる取組

温室効果ガスを削減するためには、私たち一人一人が今のライフスタイルを見直し、脱炭素につながる行動をできるものから取り入れていくことが必要です。

例えば、家の中では、電化製品はこまめにスイッチを切り、冷暖房は適切な温度設定にする。また、夏は涼しい服装、冬は厚着をする。外出時には、マイバッグやマイボトルを持って自転車や公共交通機関を利用する。買い物では、食材の買いすぎに注意し、旬のものや地元のものを食べる。

肩ひじ張らず、身近な行動で脱炭素につながるゼロカーボンアクションを皆さんも始めましょう。

環境政策課

☎050・5801・5633
☎0748・24・5692



環境学習「環境キャラバン隊」クイズ：「このトイレ紙ペーパー1つ作るのに、何個の牛乳パックが必要でしょう？」（写真右）

※答えは同ページ下に記載



日常生活における脱炭素行動と暮らしにおけるメリット
ゼロカーボンアクション30



COOL CHOICE（環境省）

クイズの答え：6個

受け継がれる伝統と歴史 政所茶



室町時代から続く600年以上の歴史があり、全国に名を馳せてきた銘茶「政所茶」。その最大の特徴は、地域全体で在来種の無農薬栽培を続けていることです。肥料には、ススキや落ち葉、「菜の花エコプロジェクト」で搾油時に残った茶葉の搾りかすを使用しています。

化学肥料や農薬などを使用せず、環境負荷の少ない生産方式を取り入れることで、その価値を高め、環境保全や生物の多様性保全にもつながっています。

生ごみを堆肥にして有効活用 ダンボールコンポスト



ダンボールコンポストとは、家庭から出た生ごみを腐葉土などと一緒に段ボールの中に入れ、微生物の力で生ごみを堆肥化するものです。1箱につき約60キログラム（4人家族の約3カ月分）の生ごみを減らし、良質な肥料として再利用することができます。

毎月第3木曜日には、市役所で講習会を開催しています。家庭でも手軽にできるので、生ごみの減量にぜひ協力をお願いします。

ペットボトルの資源循環 ボトルt o ボトル



ボトルt o ボトルとは、使用済みペットボトルを化学的に原料レベルまで分解し、新たなペットボトルとして再利用することです。このシステムは、半永久的にペットボトルを資源循環できるだけでなく、石油由来の資源を使っただけからペットボトルをつくるよりもCO₂排出量を約60%削減できるとされています。

本市では、今年度からボトルt o ボトルに取り組んでおり、市民の皆さんもリサイクルに協力をお願いします。

自然のつながりに気付く SEA TO SUMMIT



海（湖・川）、里、山を舞台に行われる「SEA TO SUMMIT」は、アウトドアスポーツを楽しむだけでなく、自然とふれあいながら自分たちを取り巻く自然環境について再認識する環境スポーツイベントです。

自然環境や地域振興について考える「環境シンポジウム」の開催とともに、鈴鹿山脈から琵琶湖まで森里川湖の多様な資源をいかしたコースを体感してもらい、自然との共存・共生について関心を高めます。

できることから始めよう！！ 暮らしを脱炭素化するアクション



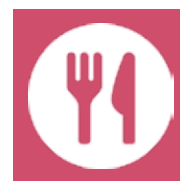
エネルギーを
節約・転換
しよう！



太陽光パネル付
き・省エネ住宅
に住もう！



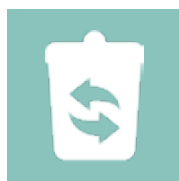
CO₂の少ない
交通手段を
選ぼう！



フードロス
をなくそう！



サステナブルな
ファッションを
しよう！



3R（リデュース、リユース、リサイクル）



CO₂の少ない
製品・サービス
を選ぼう！



環境保全活動に
積極的に
参加しよう！



環境にやさしい 暮らし普及促進奨励金



再生可能エネルギーの普及と地域経済の活性化を推進するため、住宅に太陽光発電システムや太陽熱温水器などを設置した人に奨励金を地域商品券で支給しています。

本市が抱える環境に関する諸課題は、いずれも経済・社会的な問題と絡み合っています。環境への配慮を重要な観点とする一方、環境の視点のみにとらわれず、地域内経済の活性化や人と地域のつながりなどを大切にすることを重視して取り組んでいます。

東近江市あらゆる場面で 木を使う推進協議会



市内の森林・林業関係者が集まり、「木のある暮らし」を提案するとともに、日常生活や事業活動のあらゆる場面で木が使われるような活動を展開。暮らしの中に木を多く取り入れることで、木の温かみを感じられるだけでなく、木材の循環が生まれ、ひいては間伐などの森林整備につながります。同協議会では、地域の資源や資金が地域で循環する仕組みを構築し、木育や木製品を通じて持続可能な社会の実現に取り組んでいます。

毎日の「移動」を「エコ」に スマートムーブ



学校や会社に行ったり買い物に行ったりと、私たちは暮らしの中でたくさんの移動をしています。日々の移動手段を工夫することで、誰でも簡単にCO₂排出量を削減すること（スマートムーブ）ができます。

まずは、ちょっとした外出時にマイカーではなく、鉄道やバスなどの公共交通機関を利用しましょう。駅まで歩いたり階段を上り下りしたりと、適度な運動が自身の健康づくりにもつながります。

株式会社 東近江あぐりステーション HIGASHIOMI AGRI STATION



地域産物「株式会社東近江あぐりステーション」では、市内で収穫された新鮮な農産物を市民に安定供給する「野菜の地域内流通」の仕組みにより、野菜の流通を変革させ、米・麦・大豆中心の土地利用型農業から高収益作物への転換を促進し、もうかる農業の実現を目指しています。

地域の農産物が地域で消費されることで、流通に係るCO₂排出の抑制と地域経済の活性化が期待できます。